



豊後大野市教育委員会

## 会 議 要 録

会議名：第9回豊後大野市図書館及び資料館建設検討委員会

日 時：平成29年3月13日（月）17：58～19：38

場 所：豊後大野市中央公民館視聴覚室

欠席者：田原靖憲副委員長

### 1. 開 会

事務局（廣瀬補佐）	時間は早いですが(出席予定の委員がみんな出席していることを確認できたので) 始めさせていただきます。本日は田原副委員長より欠席の届けが出ています。よろしくお願いします。
委員長	<p>第9回ということで、最後のまとめという形で総括的な会議をしたい。委員長で喋りすぎたかなと思う部分もあるが、皆さんの多くの意見をもとに、概念図を作成した。資料館のポジションはどういうところなのか、“まるごとまちじゅうミュージアム”というところがどういうイメージなのか簡単にまとめてみた。この図の左側部分がジオパーク、エコパーク関連の資料。右側は人が築いた歴史、文化関連。思いついたものを書いたので、抜けているものがあるかもしれないが、主なものを入れた。そういうものが、市内に散在している。その価値をどう資料館にどう活かすか、品定めして市民に情報提供することが大きな役割。歴史民俗資料館（以下、「歴民」という。）と埋蔵文化材センターの概要は滋賀県の物を例に挙げると、近場にあつて、保管的機能で、行政と教育機関は近いようで微妙なラインがあつて、配置図もそういったものを入れて提案する。こういう仕事があるということを頭に入れてもらって、資料館の中で何をやるかという、コンパクトに、地域全体で培った文化、大野川流域の自然と文化をテーマにした常設展があつて、企画展もする。資料館というのは、歴史民俗資料館、自然史資料館等あるが、これは総合的な資料館。何でもテーマが扱えて、豊後大野市の色々なものについていける資料を集め、それらを普及していく場として考える。ただ先行的に朝倉文夫記念館という美術館の世界、神楽会館と俵楽の郷は、どちらかという民俗文化財に関するはあるので、役割を考えた方が良い。協力関係を強力に進めるが、近しいけど区分をするというのがいいのでは</p>

ないか。埋蔵文化財センターもそうである。主に資料館では展示普及の企画をどんどんしていくというイメージ。円の中に商工会だとか、大学とか、街づくり協議会や観光協会、利用団体あるが、成果を届けるということで、仕事の延長線上で還元しないといけない。外側の円は、国指定とか市指定までの文化財のリストをジオパーク、エコパーク等々意識して左側にまとめた物と右側は人が築いた物。持ってこられないものもあるので、まるごと博物館とした。建物がいくら大きくても原尻の滝等は持ってこられないので、外に展示するという考えから街中まるごと博物館と考える。欧米的にはエコミュージアムとして普及している。文化財を拾おうとしたが、盆踊りとか神楽とか書いてあるが、市指定となると市のレベルで言うと、20~30以上あって、書ききれないので省略している部分もある。市指定の小さな、小宛焼きだとかの文化財、また多田家などの建物だとか、既に価値が造形されているもの、図の余白には豊後大野の宝物がまだたくさんあり、それを掘り起こして発見して、玉を磨いて光輝させるのが資料館の本来の姿。そういう活動も白い余白の中に含めていて、あるもの展示するだけではなく、新たな発見をして資料館に取り入れる。

あと図書館と公民館がある。図書館は二次資料、本の世界、紙に印刷された物、これをまちじゅう博物館と関連付けると、もっと深く知りたい、全国的な視野の中でどういう位置付けかということになると、紙ベースやインターネットの情報を通して深く知ることができる。公民館の関係は、まちの魅力伝えること。市民大学や高齢者大学を通じて行えばより関係がより強固になる。まちじゅうまるごと博物館で結ばれてない物を結びながら、新たな力を発揮して豊後大野市の魅力創造に関していくかが非常に大きな役割になる。今の歴民も頑張ってくれているが、新たな所で、今までの実践をさらに深め、広げることが新しい施設に求められている。今までの議論を通じて私が感じたところを私案としてまとめさせていただいた。

そしてもう一点、そういうことが進展してから、住民の方が自ら学習して研究活動してできた本がこれです。(100個くらいの集落をまとめた集落史)まちじゅうまるごとミュージアム活動が進展し、学習会や編集会議が22~23出来て、半分以上が本を作った。研究者の評価もいただいたところ。結局は従来型の資料館は与えられたものをそのまま頭に蓄える。コンパクトに咀嚼して新たに創造して市民が協同して創りだしていくそういうものが、市民協働の新たな資料館像、博物館像だと思っている。御理解頂きたい。これ(集落史)を持ってきたので、後でみなさ

	んにご案内したい。以上、報告事項、新豊後大野市図書館及び資料館基本構想について報告します。
--	---

## 2. 報告事項

### ●新豊後大野市図書館及び資料館基本構想について

#### (1) アンケートについて

事務局(小野)	※別紙資料にてアンケート結果報告
委員長	和歌山市民図書館の建設検討委員会でも、アンケートをしたが、同じような結果だった。何か感想等あるか。
衛藤委員	感想ではないが、このようなアンケートを実施して頂いたことにまず感謝申し上げます。忙しい中だったと思うが、中間的なまとめということによくわかった。先日(3月6日開催の第8回検討委員会時)自治連合会の会議があった。図書館及び資料館建設検討委員会についても様々な意見があった。各町の自治委員の方は、このような形で図書館の建設について進んでいるということの認識が薄い。もっと早くアンケートをして欲しかった。建設すべきという形でアンケートを実施しているのかと言う意見があった。犬飼の自治会長からはこういう取り組みをする場合、ぜひ地域懇談会を実施してほしいという要請があった。犬飼は新しい図書館ができてなかなか参加しづらい状況もある。しかしながら、立派なものを作るなら、ぜひ市民全体で認識を深める市民参加取り組みを、今後してもらいたいという意見がでた。特に三重あたりは、この図書館の問題について現市長はどう考えているのかなど色々意見があって紛糾したそうである。このアンケートをして頂いたお陰で市民に少しは連絡でき、関心が広がったのではないかと思っている。アンケートを実施して頂いてありがたいと思っている。
委員長	アンケート結果について質問はないか。 今後地域の意見収集、前にも言ったが基本設計、実施設計という形で、展示構想とかあるので、答申終了後に新たに作るパターン。そういう時は丹念に作る。地域懇談会を積極的にするという事は必要なこと。私も経験がある。このアンケートを踏まえて次の段階にどう取り組むかというところ。 他に質問はないか。(なしの声) アンケート結果は見ての通り。前回までの協議について事務局からお願いします。

#### (2) 前回までの協議について(確認)

事務局(小野)	※別紙資料 基本構想素案について説明
委員長	ありがとうございました。前回これを付け加えてという意見と、私が付

	<p>け加えた大野川流域の自然と文化は全て混在すると皆さんにお示しました。前回皆さんにご了解頂いたと認識した。</p> <p>次の協議事項について事務局お願いします。</p>
--	---

### 3. 協議事項

#### ●新豊後大野市図書館及び資料館基本構想について

##### (1) 規模（資料館編）

事務局(小野)	<p>協議事項、規模について別紙資料26ページの終わりが、唯一決まっていない。床面積をどれぐらいの規模にするかが、未決定なので、今日協議したい。委員長お願いします。</p>
委員長	<p>以前から話しているように、モデルを提示した。滋賀県の東近江市の能登川という所で、図書館と博物館と埋蔵文化材センターと収蔵庫が点在する共同施設。これは、2600㎡よりもっと広い空間。人口のこの町の3分の2にあたるそれぐらいの規模のもの。能登川は全国的に知れた有名な図書館、博物館も新たな挑戦をしている博物館で、博物館は資料館と書いて下さい。そうした中で複合施設の在り様を考えた時に、共有スペース、集会スペース、トイレ、カフェ等、図書館にあっても、資料館にあってもおかしくない様な空間。集会室で図書館が話し会をして使用した時バッティングするのではと心配する人もいるかもしれないが、一年中バッティングする訳ではない。時間差を設ければ同じ一日でも可能。そういう集会室だとか二つの施設がお互い通じなくてはならない空間が共有スペース。これに緒方の歴民をくっつけると考えると、緒方の歴民が約800㎡。機能としては常設展示室、企画展示室、整理室、収蔵庫。収蔵庫等々は文化財保護センターと重なる。資料館として必要な収蔵庫と企画展示室、常設展示室、資料館に固有の空間がどれだけいるかということ。滋賀県は図書館も博物館も非常に全国的に注目されていて、収集品も潤沢で国宝級がかなりあって、展開されていて職員も配置されている。そんな中で、多賀博物館と図書館共有スペース、東近江市の能登川図書館とか前原市辺りにそういう空間がある。お互いの機能を邪魔しない程度にそれぞれの独立性を設けている。入った時に玄関は同じだけど、右、左に分かれるのが一般的。共有スペースもあるが、図書館が右にあったとすると右はクローズにできるような手立てができるもの。博物館は17時までだけど、図書館は遅くまでできる時に博物館は閉められるような。資料館の中を歩いて図書館の中に入るのはまずい。共有スペースの所は供用部分だからそれぞれお互いの領域を休館日等に邪魔されない。そこで、管理が行き届くような空間を考えた時には供用スペースのところはいつでも空いている。どちらが閉館でも使用館</p>

	部分の所はこういう仕事。資料館は、企画展示室、常設展示室は必要な空間。仕事ができるそれぞれの通信本部、事務室とは言わないが、レクチャー、対話ができる、より市民に近いオープンな学芸員フロア。イメージで言うとそういう空間も必要。まず必要なところから私なりに考えるとこの部屋（視聴覚室）がおそらく 130 m <sup>2</sup> ある。建設課の方、m <sup>2</sup> 数わかるか。
事務局（建設課菅副主幹）	6メートル×6メートル・・・。130 m <sup>2</sup> くらいあります。
委員長	130 m <sup>2</sup> というのは、狭いようで企画展示室はこれくらい必要。企画で一番簡単なのは、絵を飾ること。絵大きいので、すぐできる。だが、個々にあるものを丹念に企画するとなるとかなりの物量が必要。これくらいは必要かなとなると企画展示室は 130 m <sup>2</sup> くらいになる。以前提案した集会室にもつながるようなことになると、企画展示室を出て集会室まで延長の企画展もやれる。そうした行動を後に訴えかけて、かなり思いきった展覧会もできる。美術関連は朝倉文夫記念館の企画展示室よりもかなり広い。市の財産としてあるので、そこまで必要はないかもしれない。私が今まで企画展をした経験からすると、これくらいは決して狭い空間ではない。なので、企画展示室は 120 m <sup>2</sup> ～150 m <sup>2</sup> くらい。あと、常設展示室はどれくらいかと言うと、佐伯市資料館は常設展と企画展を兼ねて 300 m <sup>2</sup> くらい(事務局と確認)。
渡邊委員	600 m <sup>2</sup> あるのでは？全体で 1200 m <sup>2</sup> 。
委員長	常設展示も企画展示も一緒に 600 m <sup>2</sup> か
渡邊委員	一緒に 600 m <sup>2</sup>
委員長	佐伯はそのくらいなので、常設展示室と企画展示室を兼ねているということか。
渡邊委員	そうだ。
委員長	常設展示室と企画展示室が混ざった空間を作るのか、分離させるのか。佐伯は 600 m <sup>2</sup> と言うなら、600 m <sup>2</sup> くらいの物を用意するべきか。あるいは、500 m <sup>2</sup> ・100 m <sup>2</sup> とか組み合わせもありえる。そうすると、全体が 2500～2600 くらいになる。そう考えて佐伯なみにして良いか。
渡邊委員	佐伯なみは欲しい
委員長	佐伯が 600 m <sup>2</sup> とすると、500 m <sup>2</sup> と 100 m <sup>2</sup> の企画展示室も有り得るか。混ぜこぜにするかどうか議論しないとイケない。
吉岡委員	佐伯は歴史が多いが、豊後大野はそれに比べて自然環境や生物化学、ジオパーク関連の展示が必要だと思う。最低でもそれくらいはほしい。いくつかの部屋に区切って 100 m <sup>2</sup> クラスの 4 つくらいの部屋に分けて、

	<p>自然から入って歴史があって、そういう 100 m<sup>2</sup>クラスの部屋が 4 つか 5 つは必要かと。</p>
委員長	<p>5 つプラス 100 というのは成り立つ。いかがか。</p> <p>私はいくつかの資料館を立ち上げに関わったが、建築のコストは図書館の比ではない。特に展示に関するものは新たに展示設計等々億単位でお金がかかる。そこをどうするか。常設展示とは言っても、ものも時々変えられるようにケースを置いて、その側にパネルを並べていく常設展示のありかた。だが、ジオラマの展示や高額機器を購入して映像を流すとなると倍倍ゲームになる。一つの装置が一億円なんてざらにある。そこまで市民の理解が得られるかどうか。もう一点は利用である。年間に人口程超えないとなかなか市民の理解は得られない。今の緒方の資料館が 500 m<sup>2</sup>とか 1000 m<sup>2</sup>とかなので、その 20~30 倍の利用をあげることができるかどうか重要な要素。では、どれくらい利用があるかという、ピンキリあって例えば北海道の山の水族館は年間 20 万人。これはそれなりの仕組みがあって、市外の方々が利用して市民の方はあまり利用しない。利用を追求するとそれなりのモノとお金と投入しないと行けない。展示をどうするかというのは、この場で決めるかどうか。今後平米だけ決めて、もう一度大体の部屋割りを決めた中で展示の基本設計をどうするか構想を練って、例えば事業の関連のコーナーがあってとか、人物紹介だったりとか、どういったイメージの展示をするかというのを、この場ではなく次の段階で議論する。それで、財政的に許されればどの水準の展示で我慢するか、もっと奮発しろと言えはそういうことになる。今の場で決めるのはなかなか難しいと思う。</p>
吉岡委員	<p>展示をどういうレベルでするのは、非常に難しいと思う。もっと専門的な議論をしなければいけないので、この場では到底議論できない。もとの職場に日本で唯一の地質の資料館があったので、展示に関ったことがある。お金はかければかけるほどどんどんかかってしまう。最近よくあるのは、バーチャル展示が多い。最近の資料館について思ったが映像が凝っていて、お金がかかっているがすぐに古くなる。やっぱり本物を見せるのが一番大事。ただ、あるものを全て並べるのが一番嫌われる。同じようにショーケースに並べられて、何が大事か分からない。数を減らしてでも、これが大事だと分かる見せ方がある。そういうようなことをすると限られた予算の中で、工夫した展示ができる。展示のプロの方に入ってもらって、今後詰めていかないと行けない。もう一つは有料にするか無料にするかという問題。以前の職場は無料だった。お金を取るコストを考えると、取っても必ずしもペイしないということと立地の理</p>

	<p>由で無料だった。根本的な問題なので、その点についてはこの場で少し議論してはどうか。</p>
委員長	<p>それともっともだが、九度山というところに真田幸村ミュージアムがあって、去年20万人が行った。バーチャルの世界。だが、閑古鳥が鳴くのではないかと私は言っている。というのは流行り廃りがあって、映像はその時の最新技術を使うが、音声が悪れたりしてそれにまたお金がかかる。私が基本的に目指すのは、第三世代の博物館像を申し上げた伊藤寿朗は、博物館というのは展示のキャプションを見るのではなくて、本物を見る。資料で語るというストーリーが資料館のいろはである。それをきっちり押さえることも必要かもしれない。例えば無料であって、年間4万人も集めている名古屋の旧師勝町博物館。90年代からずっと4万人できている。資料で語っている。圧倒的な数。会計だてた構成主義だとか色々あるが、それを通して皆さんにどう伝えていくかを丹念にやっていく。先ほども言ったが、絵を展示するのは簡単。絵の価値にみんな来る。</p> <p>絵の価値ではなくて、石ころをたくさん並べた所で違う種類の石をストーリー立てて並べて、単なる石ころが宝石に変わるような、そういう手法がある。だから、そういうものを目指すのかどうか多少は議論した方が良い。今日は面積をどうするかという部分において、議論をつくしたら有料か無料かは非常に問題で、この場ではなくて今後運営協議会だとかいう部分で議論した方が良いのではないか。今日時間があればその形まで進めたい。</p> <p>面積のイメージは実際の数値がでた。5つの部屋があって、1つが100㎡</p> <p>単位の佐伯なみの600㎡。なかなか難しいが、この部屋（視聴覚室）が5つくらいある。かなり広い。</p>
工藤委員	<p>緒方の歴民は事務室と図書館にしか行ったことがなくて、左側は行ったことがないが、実際に企画展などはしているのか。この部屋（視聴覚室）が5つくらいあって、歴民の職員がそれを上手く使って企画展示をすとなったときに文化財だけではなくて、（部屋を）フルに有効利用できるのか。</p>
委員長	<p>今の現況とは違うものを作ろうとしていることをご理解頂きたい。今は埋蔵文化財とかあれもこれもというのはとてもできない。ミュージアムエディケーターではないが、プランニングをしてプロデュースして企画展をどんどんやるコンセプトで進んでいる。500㎡あるなかで常設展もかなり力を入れる。100㎡の企画も用意しようとしていた。能登川は</p>



	<p>100回も展示している。100回200回も展示すると日々それにかかりっきりの仕事がある。そういうイメージでないと人が来ない。テーマ性を持って、切り口を持ってしないとそういう展開をどうするか非常に難しい。でないと持て余してしまう。資料館を作るというのはそういうところで、皆さんの合意のもとにここまでやってきたが、埋蔵文化財とは切り離して、収蔵部分は埋蔵文化財とセンターにある。</p> <p>そこで新たな価値を見出して、テーマ性を追求してやって行くとなるとこれはかなり難儀。やるほどに職員が力を付けて行って10年20年経つほどに“成長する”。これはキーワードである。職員だけではなくて市民協働という形で市民とともに作り上げていく空間を用意することも重要。どこもかしこも資料館、美術館を作ろうとしていて別府も美術館を作ろうという話になっていて候補地が決まっているそうである。飽きられるということもあるので、飽きられず来たくくなるような展示をするということになると、建物をつくる以上に難しい。建物を作れば終わりだがそれから始まるので、どう人材を育てていって、500㎡の空間と100㎡の空間をどう使いこなしていくか。今の意見はどうか。</p>
渡邊委員	<p>それで良いのではないか。全体の面積だけ決めておいて、使い方はもう少し専門的な工夫がいる。参考にするための事例がいっぱいあって、みやこ町というのが大体500㎡基本設計の中で、豊後大野市と同じくらいの埋蔵文化財がある。そこは500㎡だが、そこまでは企画展が関係してくるが。できればみやこ町と同じくらいの500㎡は欲しいが、154とか100×4とかにしておけば、順番に部屋を回って歩く。たいがい博物館はそういうふうになっている。若干柔軟な形でやればいい。佐伯はものすごく気苦労して決めた。佐伯の資料があるがものすごく綿密にやっている。佐伯とここを比べると埋蔵文化財はここの方が断然多い。佐伯はあまりないので、比較してもきりがないので600㎡ということが良いか。</p>
委員長	<p>文化財のことについては理解できるし、自然のことも理解できる。人文とか科学誌とか色んなことがある。埋蔵文化財だけに興味を持っている人はいない。全ての方が納得できるような展示構成しないとイケない。これは、豊後大野市民が気軽に触れる空間にならないので、非常に慎重にして頂きたい。図書館とあるのは非常にいい。欧米は日常的に博物館や美術館、図書館がある。日本は日常的にはなれてない。そこまでどういうふうにするかも考えていかなければならない。人と物を結ぶのが博物館、資料館の大きな機能。</p> <p>人の扱いや今後の計画を丹念にやっていくということで良いか。面積は</p>

	<p>あまり欲張るときりが無いし、はっきり言ってあまり大きな物を作っても使いこなせない。北海道の斜里の例を挙げたがそこはすさまじい学芸員達の努力で成長している。多くが疲弊している博物館、資料館が大多数。そこで、市民の皆さんが共につくる。次は500㎡だけど1000㎡にする活動があつて展開されれば市民の声を受けて大きくなる。例えば20億30億かければ実現するかもしれないが、客観的に見ても無理なことをすると閑古鳥が鳴く空間になってしまう。滋賀県も50市町村があり資料館が充実している。考古学での世界では一級品がたくさんあるが、閑古鳥がいないところがものすごく多い。だけど利用も視野に入れないと、無料ということにもつながるので図書館以上に難しい。この場では難しいので佐伯なみの500㎡の常設、100㎡の企画、後は共用部分でいかがか。</p>
杉浦委員	<p>博物館の概念の地方志向型、地域全体に係ることというのは、図書館の場合も地域につながる、三重のコアな部分につながるという話もあったが、資料館、エコミュージアム、要するに地域まるごと博物館というイメージだったら、地方施行型ではないというのと、地方施行型ならば、観光の結果という観光部分も意識するが地元住民。だからこそ市民参加型になる、そうなるコアとサブのところにつながる、そして成長していくという話が図書館の話もあった。よく考えると資料館も同じでストーリーが大事だということで、考古学も色々触発され、関心がある。ジオとかもあるし、エコの方も登録が7月くらいになる。さっきの話で大野川流域というキーワードがあつたが、大野川流域の自然大地や文化、民俗、積み重なる歴史みたいなストーリーを重視しながら、図書館がすぐそばにあるから、資料そのものを重視した展示にするという資料館にするという流れになる。部屋も確かによく解らなくなるので100㎡と500㎡の600㎡は大きすぎるのではないか。今の段階では企画展示と常設展示の合計で600㎡を目指して王道な流域のストーリー重視、資料を重視した展示にしていくぐらいで、そこから先はここでは決められない。</p>
委員長	<p>今日決めるのは大体のスケール、大きさということ。佐伯なみの500㎡と100㎡のスケールで後は共有部分で必要な部分を足していくということかどうか。私は竹田も杵築も関わっているので、大体の合計は知っている。その中でいくとそんなに狭くもなく、特段広くもない。豊後大野の身の丈にあつたものであつても、それが活かしきれなければ宝の持ち腐れになる。それを狭いと感じる様な次の展開にステップアップするようなそういう成長するというのをキーワードに次の方々にバトンタ</p>

	<p>ッチをするということでしょうか。あと、見えないところはサテライトと書いている。サテライトというのは、NPOの方が原尻の滝の空いている所で立ち上げた民間のジオミュージアムが街中に出てきたら楽しいのではないかと。稲積鍾乳洞だってミュージアムの一つ。全体像で市民の方が楽しんだり、観光客の方が楽しむような行動をぐるぐる回す。プロデュースしていく。これをつないでいくのが非常に重要。そうした時に面積が足りないとか、もっと市民がどんどん掛け合ってもっと広げろという話になるかもしれない。それは次の段階に期待したいが、どうか。我々はここまで話したが、バトンを引き継いだ方々は非常に大変。愛知県に足助村屋敷というのがある。小沢庄一さんという人が作った。壮大な構想でかなりお金をつぎこんだ。議員や町民から、かなりの批判が来た。失敗した時にどうするかと言ったら、火をつけて燃やすと言った。それぐらい死に物狂いでやった。それぐらいの気迫をもってしないと行けない。そういうことは肝に命じて答申を出す以上は、応援団ではなくて責任も持って見守っていくというのも重要。面積については今日のところはこれで良いか。規模についてはこれで。事務局お願いします。</p>
事務局(小野)	<p>1点確認させてください。規模については分かりました。展示に関する次のステップというのは具体的に次の構想に書くことになるのでしょうか。</p>
委員長	<p>次は、規模を踏まえた展示基本構想を早急に立てるべきという文言が必要になるかと。</p>
衛藤委員	<p>図書館はそれなりに見えてきた。資料館は500㎡とか600㎡とか5つに小分けするとかいう部分がなかなかイメージできないが、実際どういうことが可能か、もう少し議論しないと佐伯はどうだったかとかいうのでは問題。特に資料館の構想については人や財政、内容の企画といった具体的にどういうことをするために佐伯と同じ平米が必要なのか議論が必要なのは。</p>
委員長	<p>私の頭の中では、例えば大野川の曙というような形で始まって、一般的な太古から現代までの通史的な流れがある。それがあつたうえで、豊かな自然、文化を囲む大地みたいな形とか、次の段階はどういうふうに展開していったか、5本立てくらいの各部屋の一つのテーマを部屋ごとに。またそれをさらに小見出しに設計ができると思う。もし仮にそういうものを出せと言うなら私のイメージの中では言えるが、基本の展示に関する専門の方々と議論をしてその中で煮詰めた方がより正確なもので市民、学習者に近いものができてくる。大急ぎで基本設計を立てるべきということはこちら側は提言したい。</p>

衛藤委員	企画で、資料館で成功している事例をあまり知らない。私が知る限りではほとんどが、閑古鳥が鳴いている資料館、博物館が多数なので図書館と連携しながら結合を図っていく。未来に向かって資料館の展開がどういう風に向けていくのか非常にわかりにくい。
委員長	図書館にあっても今まで図書館を使ったことの無い人にはどういふものか分からない。私の経験で申し訳ないが年間 1700 冊しか貸出ししなかったのを 23 万冊の貸出をして人が増える。資料館を作らせた。資料館もこんなもので作れるか年間 2 万人でずっと人が来ている。これはどういふアプローチをしてどういふ企画をやるかという企画力の差。従来の発想の博物館というのは、第一世代の博物館というのは宝物を見せるというような感じで、宝物は一回見たら終わり、行動的に何層も問いかけをするなどした仕組み作りが必要。この辺に事例がなければ、全国的な視点で賑わって支持されているところに視察なり行って頂くと納得して頂ける。そういうものを豊後大野市も目指して議論している。光り物とか映像だけでなく本物を展示してストーリー性があって、学びがあって、使われるようなものをどう展開していくかを検討委員としては申し送り、答申の中に文言として入れるべき。早急に市民に支持される資料館像を、展示基本構想を立てて頂きたいという旨は当然申し送りする。ずっと資料館を見て来て、例えばOPAMが作られた時、基本設計書を次の構想委員会にかけている。全国の都道府県庁の中の美術館の利用状況を調べている。100 万人の都市で年間 1 万人に満たないところもある。OPAMはどこぐらいを設定したかと言うと、人口の半分の 60 万人をめどにしていたが近頃減っている。一年目は多いかもしれないが、右肩上がりに動くような工夫を展開することは慎重に考えなければならない。非常に難易度が高い。作りっぱなしは誰でもできる。ある程度市民が納得できるような。私は「二万人の法則」と呼んでいるが、年間二万人来ればどういふことが起きるかという無人状態を作らない。5 分滞在していると誰かがいる。それ以下だと無人状態をつくる。それこそ閑古鳥が鳴くことになる。ハードルが結構高い、そういう所に人が来て、図書館には日々人が来るのでその方々が誘導して流れるような。せっかくの複合施設だからそういう工夫が必要。我々は一般のサイドではなくどういふようなサポートをするか次の申し送りではなく、お願いとして。
渡邊委員	イメージとしては、豊後大野市は文化財が無数にある。先のような構想で細かいところは別途展示基本構想でよいが、別紙の表をもとにイメージすると例えば古代だったら、ジオパークと絡めて焼けた木の展示だった

	<p>り、どうして今日まで残っていたかとかある。中世だったら豊後刀は二大拠点の一つ。個人で豊後刀の立派な刀を持っている人はたくさんいる。そういうものを展示したり、大友氏の歴代4人の墓はここにある。立花道雪とか色んな仏教遺跡もたくさんある。それらの紹介もしたり、最近では石橋とか清水守さんとか展示の夢はいっぱい膨らむ。この会だけでは限界。しかしイメージは膨らむ。古代から古墳時代、中世、近世という風な流れを持って、ジオパーク・エコパークと絡めて展示できたら、すばらしいものになるというイメージ。</p>
委員長	<p>そのためにも優秀な職員とスタッフを手立てしないと無理。モデルにしているのは平塚の博物館。ここは30年40年経っても色あせていないし成長している。北海道の斜里もずっと見ているが、そういうものになっていけば、市民ももっと博物館のためにお金をかけようと言ってくるようになってくる。できていなければ、市民から見放されて取り壊しもあり得る。今後どういう展示基本構想を将来に向けてやるのかの重要性を申し送るしかない。</p>
後藤綾子委員	<p>学術的に歴史民俗資料館や、神楽会館、俵楽の郷とかに子ども達を連れて行ったことがある。最初は怖くて入れなかった。お化け屋敷状態。すぐもったいないと思って、剥製とかお面とかがたくさんあると怖がっていた。それをどうしたら払拭できるか。子どもに話を聞くと剣とかかっこいい物とかかわいい物、そういうのをなるべく前に出して、はく製でもお墓でも大切なものは大切と思えるような展示構成にしてもらった方が女性も入りやすい。あまり学術的すぎると一般の人は怖い。親しみやすい、かわいい、かっこいい、入りやすいというのを目指してほしい。</p>
委員長	<p>和歌山に学校の校舎を改良したエビとカニの博物館というのがある。非常に経営がうまくて、(タレントの) さかなクンも向こうから協力をするというので、非常に賑わっている。学術的な物を噛み砕いて皆さんが自然に入っていきやすいようなそういうストーリー性を持って価値が分かるようにしないと難しいので、今後の展示設計や経営の所で十分議論して、賑わう、豊後大野市に来て良かった、住んで良かった、資料館があつて良かったと言われるものに、ハードルは高いが目指さないと価値がない。大人にも子どもにも受け入れられるようなコンセプトを持ったものを目指していくくらいは次々に話が出来て良い。よろしいか。決まった共用スペース、集会室、トイレ、共同研究室諸々許せる範囲で付け加えてプランニングをしてはどうか。各部屋の広さは10㎡とかのオーダーである。</p>

工藤委員	先程OPAMの話がでていたが、私も何度か行った。やはり、企画力がすごいが、見るのに疲れて休息する場所があまりない。それで、足が遠のいて、それよりも大分市立美術館の方がコンパクトだけど、すごくのんびりできて、自分の気持ちが大らかに作品を見ることができる。あそこは、周りにも緑がいっぱいあって、そういうところを対比した時にはやはり後者のような市民がそういう感覚になれるようなものを期待する。
委員長	ごもつともである。(OPAMと大分市美術館は)基本的なスタンスが違う。どっちがいいとは言えないが、そういう所の視点の置き場所をどうするのかということも重要。和歌山の市民図書館、博物館も年間数万人にもならないところにすごいビルディングを建てている。これは、あまり県民が感心を示さない上に、使われてないことも問題視されない。そこがまた問題、市民に還元するものがないということになれば飾りを作ることになる。飾りでなくて、それが使われて市民に還元されて、この機能が十分果たされている。市民が新しい発見だったり、生き方を変えたり、新しい出会いを作っていくという空間にどうするか。今後運営側のところで議論して頂くというのはどうか。

## (2) その他全体を通して

- ・ アンケートの結果
- ・ 検討委員会設置要綱及び委員名簿

事務局(小野)	別紙資料(2)その他 全体を通してというところです。今議論して頂いた部分を含めて答申を作るわけですが、その他まだ議論していない部分や、付け加えた方が良くはないとか、事務局が考えたのは、アンケートの結果、検討委員会の設置要綱、委員の名簿です。他市の状況を見るとこのあたりは入れています。この2点は当事務局で考えられるプラスアルファの資料です。みなさんの中で他にないか、委員長お願いします。
委員長	今後アンケートの結果に限らず、先ほど衛藤委員から意見があったが、今後市民の中に入って行って丹念に説明するというのも必要。これまでのアンケート結果はこれで了解して頂いて、今後色んな方々、各専門家や各分野の意見を聞く機会を設けて頂きたいがどうか。
杉浦委員	アンケートの結果は非常に良かった。今400ぐらいの集計だが、1000になってもほぼ同じような結果が想像できる。提案の16ページだが、三重町内田とはっきり明記している。コアの図書館、資料館はここが良いと検討委員会の責任として明記している。立地条件に次のページに勉強会をさせて欲しいとか、公民館も近いし、資料館もセットになればいい

	いし、ホールも近いしということで、融合的にというのは17ページを見れば何とか分かると思う。あとアンケート結果からも、場所を知らないとか、遠くは困るとか、図書館は遠くへ行けないのが多いなどはっきりしているので、結果的にそうなるだろうと予測はしていたが、このアンケート結果からもどうのこうの入れると検討委員会が理屈だけ考えただけでなく、皆さんの意見も含めて資料館に行かない、図書館を利用しないというところを踏まえてもここが一番適切だということが言える。ここを上手くリンクして出した方が良いのではないかな。
委員長	この結果を結果に留めておくのではなくて、課題があれば課題を解決していく手立てをどうするかを考えなければならない。
杉浦委員	それと同時に立地条件は、図書館はこの三重にするんだということを発信した方が分かりやすい。アンケートの結果と委員会の設置要綱と全部見てくれる人がいればいいが、こういう所で作りたいという要約というか、3行でも4行でも分かりやすく、あと詳しくはこちらを見て下さいというような、セットを含めて、課題ももちろんだが課題のポイントと今までのクリアの状況を全部考えて三重がふさわしいと思うというのを書いたうえで、要項や委員名簿があった方がよい。実は生物多様性の豊後大野戦略を作ったときにもものすごく厚めに作ったが、ようは売りは何だとか、もっとポイントを分かりやすくとか、大事なことは分かるが、もっとすぐに分かるような物が欲しいと言われ、反省の意味も込めて。
委員長	アンケート結果も全部入れるが、広報でコンパクトに噛み砕いた形のもの伝えれば解決する。二つポイントがある。立地の問題、遠いとか色々あったとして、千歳や緒方は遠いかもかもしれないが、魅力的な空間を作れば距離を感じない。これは、いい物をどう作るかに関わってくる。もう一つは、遠くを解決するために図書館にあっては、愛知県の田原市なんかは巡回バスを出して、福井県立図書館は福井駅前から無料バスが出ている。福祉と絡めるとか、教育委員会だけではなくて、総合行政の中でどういうふうなバランスを考えて、どう戦略的に捉えるかということも今後の検討課題。
吉岡委員	せっかく市民からアンケートをとったので、市民の方が答えっぱなしでどこに行ったか分からないというのが、一番怖い状態。答申にアンケートの結果を踏まえてこういうふうにしましたという書き方にした方がよい。アンケート答えたのに全然関係なく答申がでたと思われるのが一番良くない。
事務局(小野)	全てのアンケートが集約されていない状況ですが、その辺り(アンケート結果)も文言として入れるということでよいでしょうか。

委員長	部分的に文言だけでも。
事務局	了解した。
衛藤委員	アンケートの件については、それなりに文章化しながらまとめていった方がよい。それとこの答申の中に財政的なことがない。市も決して裕福な状況ではない。市の財政を十分考慮しながら、効率的で魅力的な資料館図書館を目指す。市民が必ず訪れるような資料館、図書館づくりを目指す。財政も踏まえながらというところを入れて欲しい。
杉浦委員	ポイントを入れて、公民館のコアミュージアム、コアな図書館は三重だということを明記する。つながりというキーワードを一番のメインコンセプトに入れている。12ページの図があって、三重だけではない他の地域にもつながっていくんだという、例えば公民館とか書いてある。他の地区の全員が参画できる点でいうと、この図を載せたり、資料館の方も今日作られたこのような図があると、三重だけでなく全部つながっていて、地域がそれぞれ活躍できるんだという意味で、それこそ広報なり、前文のところ載せてもらって、一番分かりやすく図とコンセプトと、その核が三重だということを分かりやすく出してほしい。
委員長	<p>ありがとうございます。一番肝心の財政問題も衛藤委員から指摘があった。無尽蔵にお金がある訳ではないが、この場では埋蔵文化財センターを</p> <p>のせるというような努力もしたし、あちこちの自治体と比較をしつつ身の丈にあったものを提案した。そこは文言に入れて欲しい。そして、分かりやすくコンセプトに使われるような表現で市民にいち早く伝えることが必要。</p> <p>続いて、別紙資料(3)の今後について事務局お願いします。</p>

## (3) 今後について(事務局より)

- ・答申(3月27日(月) 13:00~)及びその対応
- ・パブリックコメントについて

社会教育課 課長	<p>大変お疲れ様でした。今後のことについて私からお伝えします。2点あり答申のこととパブリックコメントのことについてです。建設検討委員会については教育委員会の諮問機関という形で協議をお願いしています。答申については教育委員会がいただくという形になりますが、財政的な部分や大きな政策については市長部局が関わっていないとできない部分もございます。それで答申の際に教育委員会が受け取るが、市長も一緒に入ってもらおうと考えています。それを踏まえた日程を考えたときに、調整がとれるのが、3月27日の13時から時間が取れそうで、その時の委員さん方の対応を委員みなさんに協議して頂きたいですが、</p>
-------------	--



	<p>委員会についてはほとんど2週間に1回というハードな日程の上に予定の回数よりもオーバーして審議してもらったので、その時に委員さん全員に出てもらうのは、こちらとしてはご迷惑になるのではないかと考えています。それで、代表として委員長にでてもらうということで良いかどうかという点です。それと、パブリックコメントについては、答申が終わり次第直ちに準備をしたいと考えています。その中でポイントを押さえた概要版を入れるとか、少しでも意図するものが見えるような形のもの添付するとか工夫をさせて頂きたいと考えています。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。以上をもって建設検討委員会の全ての日程を終えたところで振り返ると、私も喋りすぎた、走りすぎた、余計なことを喋ったのではないかと反省しているが、委員の皆様からは貴重な意見を頂いた。それが上手くまとまったと思う。短期間でスピードが要求されたが重ねた時間はかなりのもので、密度の濃いものだった。これが実のあるものになっていくように答申をさせて頂く。市の方々にはそれを反映されるようお願いしたい。終わりあたりまして、ご挨拶したい。本当にありがとうございます。御苦労様でした。</p>

#### 4. 閉 会

教育長	<p>お礼を申し上げます。2週間に1回、全部で9回という大変長い時間をかけて熱心に議論させていただきました。遅い時には3時間近くかけての論議もありました。皆さんそれぞれ、専門分野をお持ちでそれぞれの思いが、市民に思いを伝えよう、活かそうということで本当に熱心に議論させていただきました。一つまとまったことが図書館と資料館を併設するという事だと思えます。そして三重町につくるということ、また大野川流域というイメージができたと思えます。つくったら、活用できる運営が必要だということが出されました。市民から見放されない、支持されるような建物をつくっていきたいと思っています。</p> <p>財力等できるだけ皆さんの思いを入れた建物になるよう努力していきたいと思っています。渡部委員長が言った「作る方は気迫を持ってやる」ということ、皆様方もこれが終わりというのではなくて、責任を持って身を守るというふうな話がありました。本当に長時間にわたって論議していただいて心から感謝を申し上げます。特に渡部委員長には全国を走り回っている中、貴重な時間御指導頂き感謝申し上げます。大変ありがとうございました。</p>
-----	---

#### ●補足

佐伯市歴史資料館におけるその展示室の広さは、その後の聞き取り調査で、325㎡（展示

室外の展示コーナーも含めると約 360 m<sup>2</sup>) であることが分かった。そこで、発言者の渡邊委員に連絡し、自身の見解が誤っていたことを伝えた上で、渡部委員長とも協議した。それにより答申書内の 600 m<sup>2</sup>を 400 m<sup>2</sup>と読み替えることとした。